

寺院調査プロジェクト「都市寺院調査」

大都市における本宗寺院の現状と

新たな開教布教の可能性をさぐる

—— 札幌市（中間報告 アンケート回答を中心に） ——

はじめに

過疎地寺院の調査レポートを提出後、視点を人口過密地である大都市に移し、ここでの本宗寺院の置かれている状況、さらに団地布教等新たな開教の可能性を探ることをテーマに、調査のための資料作成、研究討議を行い、仮説立案を進めてきた。

大きくはA、B二つの柱に分けられ、さらに細分化される。

A. 大都市における本宗寺院の現状。

- ①一般に希薄と言われる寺院と檀信徒の関係がどういう状況にあるのか。
- ②社会的に取り沙汰されることの多くなった墓地、葬儀、戒名等の問題を寺院の側はどう考えているのか。
- ③現状に対して寺院の側の認識は安心感か危機感か、いづれの意識か。
- ④僧侶不足の大都市と檀信徒不足の過疎地が交流して共存共栄の道はないか。
- ⑤墓地不足、ドーナツ化による人口減少、行事の低迷化等さまざまな諸問題の本質はどこにあるのか。

B. 大都市における布教と開教の方策を考えるために、宗教問題全般を調査、整理

する。

- ①大都市における市民の宗教に対するニーズはどこにあるのか。
- ②都市ごとに異なる宗教問題の特質の整理、分類。
- ③墓地や葬祭場、さらには心の悩み相談も含めて、大都市における開教の必要性和可能性。

以上を考えたときに、現代社会の問題をいち早く表面化させる大都市において、これまでの教団の布教方法と、市民との間に大きなズレが生じているであろうことは想像に難くない。そこで戦後設立された寺院数を都道府県別に整理すると、単純な数では東京、北海道、神奈川、大阪、埼玉の順で都市化の顕著な地区と対応していることがわかる（『日蓮宗寺院大鑑』池上本門寺刊より集計）。しかし旧来の寺院数の割合をもとにした増加率からいくと、沖縄、鹿児島を別として福島、埼玉、茨城、山形、宮城の順となり、北海道は9位、大阪13、東京19、神奈川30位と、埼玉を除いて東北地方に多いことがわかる。この場合、一般に九州も含めて修法が盛んと言われる地方に増加率が高く、管区別の全教師中、修法師の比率でみても東北、北海道、九州が45%前後と他の管区の中でも群を抜いて顕著である。

本宗の修法布教が戦後、地方において新寺建立にはたした役割は大きいと言える。一方、その永続性という面で捉えた場合、廃寺、無住の詳細な資料の入手が不可能な現状で、分析に着手できなかった。これらから考えて、大都市における布教、開教に修法が一つの大きな武器になることは十分考えられるが、最適な布教手段と断定することはできない。こうした点も含めて、プロジェクトでは大都市に住む人々の意識と布教方法の問題を探るべく、調査、研究を進めている。

その中間報告として、戦後設立の寺院数、その増加率、修法師の比率がいずれも高い北海道で札幌市を対象に現地調査を実施した。そこでは、

- (1)札幌市の宗教全般の状況として、新宗教、キリスト教、葬儀社、霊園の関係者に面接調査

(2)本宗寺院の現状と教師の側の認識をアンケート調査及び日青会員による座談会

さらに予備調査を含め3回赴いた。今回はその中間報告として(2)本宗寺院の現状と教師の側の認識に対するアンケート調査の中間報告である。

I 調査経過

1. 予備調査 1993年2月15日～17日
北海道西部宗務所、北海道庁訪問、資料収集。
2. 第1次調査 1993年3月30日～4月2日
A班 市内石材店、霊園、納骨堂、葬儀社等6カ所
B班 市内本宗4カ寺
C班 カトリック教区事務所 阿含宗
北海道クリスチャンセンター 立正佼成会
3. 第2次調査 1993年9月2日～3日
札幌市内23カ寺アンケート回収
日青会員座談会「都市開教の可能性と問題点」
4. アンケート内容
※次頁参照

都市寺院調査アンケート

日蓮宗現代宗教研究所

★このアンケートは現宗研寺院調査プロジェクトの調査・研究の目的のために使用するものです。また、宗務院の 財政調査の資料となることもありません。

★皆様からいただいたアンケートは、貴重なデータとして慎重に取り扱わせていただきますので、個人的には一切ご迷惑をおかけすることはありません。忌憚のないご意見をお聞かせ下さい。

★選択事項の場合には、該当する番号に○をお付け下さい。

Ⅰ お寺の状況とあなたのことについてお答え下さい。

(1) 住職の経歴

- a、年 齢 (満 歳)
- b、住職歴 (年)
- c、出 身
 - 1、現在の寺院
 - 2、他の寺院
 - 3、在家
- d、出身地
 - 1、札幌市内
 - 2、札幌市以外の道内
 - 3、道外
- e、修行歴
 - 1、加行所 (回)
 - 2、布教院 (回)
 - 3、布教研修所
 - 4、声明講習会
- f、最終学歴 ()
- g、兼業の有無
 - 1、有
 - 2、無

(2) 寺院の状況

- a、寺院の創立年 (年 ・ 不明)
- b、移転の有無
 - 1、有
 - 2、無
- c、後継者の有無
 - 1、有
 - 2、無
- d、寺院の主な収入源として多い順に3つ番号を入れて下さい。
 - () 自坊の月回向
 - () 自坊の葬儀、法事
 - () 自坊の祈禱
 - () 自坊の年中行事
 - () 自坊の収益事業
 - () 兼業する職業
 - () 他寺の法務
 - () その他 ()

(3) 檀信徒の状況

- a、檀家数（約 軒）
- b、① 信者数（約 人）
② 主な年齢層
1、20歳代 2、30歳代 3、40歳代
4、50歳代 5、60歳代 6、70歳代
③ 主な性別
1、男 2、女 3、どちらともいえない
- c、檀信徒の増減
1、増加傾向 2、減少傾向 3、変化なし
- d、最も多い入檀、入信の理由

[]

II 布教の現状についてお答え下さい。

- (1) 月回向の状況
a、月回向の有無
1、有 2、無
b、1ヶ月あたりの月回向の軒数（約 軒）
c、1軒あたりの所要時間（約 分）
- (2) お寺の行事に参加される檀信徒の割合はどんな状況ですか。
a、祈禱会〔屋祭り、守護神祭など〕（約 割）
b、施餓鬼会（約 割） c、彼岸会（約 割）
d、お会式（約 割） e、信行会（約 割）
- (3) 現在もっとも力を入れている布教方法は何ですか（力を入れている順に3つお書き下さい）。
1、（ ）
2、（ ）
3、（ ）
- (4) 札幌市の人口に対する宗門寺院の割合をどう思いますか
1、多い 2、適当 3、少ない 4、わからない
- (5) 今後有効だと思う布教方法は何かとお考えですか。

[]

Ⅲ 葬儀、納骨堂（墓地）の状況についてお答え下さい。

- (1) 主な葬儀式場はどこが多いですか（複数可）。
1、自宅 2、寺院（寺院の会館を含む） 3、貸斎場
4、集会場 5、その他（ ）
- (2) 葬儀の際の平均的な役僧の人数
1、0人 2、1人 3、2人 4、3人
5、4人 6、5人 7、6人以上
- (3) 法号料または、それに類する名目で山納金がありますか。
1、有 2、無
- (4) 1回あたりの葬儀の布施収入（役僧法礼など一切を含む）の平均額はいくらぐらいですか。
（約 万円）
- (5) 葬儀社を通して、檀家以外の葬儀を依頼されることは年間どのくらいありますか。
（約 回）
- (6) 総檀家数の何割ぐらいか、お寺の納骨堂（境内墓地を含む）を利用していますか。
（約 割）

Ⅳ 寺院運営に関する問題の状況についてご意見をお聞かせ下さい。

- (1) ①子供数の減少で墓の後継ぎがないという問題が言われていますが、そのような傾向は現われていますか。
1、ある 2、ない
- ②「1、ある」と答えられた方は、寺院としてどう対応すべきだとお考えですか。
1、すでに具体化している方は、その内容をお聞かせ下さい。

[]

2、現在考えている方は、その内容をお聞かせ下さい。

[]

3、何も考えていない。

- (2) 仏壇内に、他の信仰の物（新宗教の総戒名、お札など）を発見した場合、どのように対応しますか。
1、黙っている 2、一応説明して外させるようにする
3、絶対に外させる
4、その他（ ）

Ⅱ アンケート集計の結果についての考察

※調査項目は多岐にわたるが、中間報告ということでもあり宗勢調査と比較分析できる項目を主に取り出して考察した

※文中および集計結果の「宗勢調査値」は、平成4年度宗勢調査による

※項目の後ろの数字は、アンケートの質問番号

1. 住職の年齢 [I-(1)-a]

住職の年代層は、宗勢調査値によると60代が23.1%と最も多く、40代、50代、60代、で全体の65%を占めている。ところが本調査では、40代が44%で最も多く、次いで50代の22%、60代の17%と続いている。このデータから、札幌市の寺院では、40代を中心として若い世代の住職によって構成されていることが特徴的であるといえる。

2. 住職の経歴 [I-(1)-b]

住職歴を宗勢調査で見ると、10年台（11年～20年）が最も多く、20年台（21年～30年）、30年台（31年～40年）と続いている。しかし、本調査では、20年台が30%、また一方で5年以下という住職歴の短い教師が、同じく30%で共に第一位であった。

特に5年以下という短い住職歴は、宗勢調査値では、13.8%であることから、若い住職層が多いことが札幌の特徴であるといえる。

3. 住職の出身 [I-(1)-c]

全住職に①現在の寺院の出身であるか。②他の寺院の出身であるか。③在家の出身であるかを尋ねた。宗勢調査では、現在の寺院と他の寺院の区別はせず、「寺院出身」という調査データのみではあるが、これと比較してみた。すると、寺院出身は62%であるが、本調査の寺院出身は、52%にすぎなかった。つまり、約5割（48%）に近い人たちが在家出身であることが札幌寺院の特徴である。

4. 後継者の有無 [I-(2)-c]

後継者の有無は、宗勢調査では65.4%が「有」と回答している。この項目について本調査では、宗勢調査とまったく同様の65.0%という数値が出ている。

札幌市の寺院後継者の比率はこのように宗勢調査と一致するが、一方で35%の寺院に後継者が無いという事実も見逃すことはできない。

また、この問題については、前回の宗勢調査（昭和63年度実施）より横這いの傾向が続いていることも付記しておく。

5. 檀信徒の状況 [I-(3)-a]

各寺院の檀家数を見ると、200戸以下という寺院が65%を占めている。この数値は、宗勢調査の同じ200戸以下の74.8%に準ずる。一方、401戸～1,000戸も檀家をかかえる寺院が、3割近くも占め、宗勢調査値（約1割）よりもかなり高い比率である。同時に、50戸以下の寺院も26%（宗勢調査値では31.9%）もあることを考え合わせると、大きな寺院と小さな寺院との格差が際立っているのがひとつの特徴といえよう。

6. 檀信徒の増減 [I-(3)-c]

檀信徒の増減を見ると、本調査では61%が「増加傾向にある」と答え、13%が「減少傾向にある」と答え、26%が「変化なし」との回答であった。

まず増加傾向では、宗勢調査値は檀家は53.2%、信徒は43.5%である。檀家と信徒の区別はないが、本調査の61%増加傾向という数値は、かなり高いといえる。また減少傾向にある寺院の比率は高いが、その実数は3カ寺で、それぞれが立地条件の悪さ、後継者不安などの問題を抱えている。この点を考慮すれば、札幌市全般では人口が増加する都市型の檀信徒増加傾向の地域といえる。しかし、その実態は「檀信徒の出入りが多い」という調査中に聞かれた声に象徴されるように、その定着率の低さは何を意味するのか、大きな問題といえる。

7. 行事への参加状況（施餓鬼会と御会式のみ）[II-(2)-b, d]

施餓鬼会への参加状況は、4～5割の参加が36%（宗勢調査値20.5%）、6～7割の参加が30%（宗勢調査値25.1%）となっており、宗勢調査からみると

加率が高いことがうかがえる。

また、御会式の参加状況も、8割から9割の参加が21%も有り、宗勢調査値の12.0%と比較すると高い参加率であることが理解される。

〈集計結果〉

I 住職と寺院の状況について

(1) 住職の経歴

a. 年 齢

	人 数(人)	構成率(%)	宗 勢 調 査 値(%)
20 代	0	0	2.0
30 代	1	4	9.1
40 代	10	44	21.9
50 代	5	22	20.2
60 代	4	17	23.1
70 代	3	13	14.3
80 代	0	0	4.8
90歳以上	0	0	0.6
不 明	0	0	4.0
計	23	100	100.0

b. 住職歴

	人 数(人)	構成率(%)	宗 勢 調 査 値(%)
5年以下	7	30	13.8
6～10年	3	13	13.0
11～20年	4	17	22.5
21～30年	7	30	17.3
31～40年	1	4	14.0
41年以上	1	4	14.9
不 明	0	0	4.5
計	23	98	100.0

c. 出 身

	人 数(人)	構成率(%)
現在の寺院	5	22
他の寺院	7	30
在 家	11	48
計	23	100

d. 出身地

	人 数(人)	構成率(%)
札幌市内	8	35
道 内	12	52
道 外	3	13
計	23	100

e. 修行歴 (回答者数 23人)

	人数(人)	構成率(%)
加 行 所	15	65
布 教 院	12	52
布 教 研 修 所	2	9
声 明 講 習 会	7	30
な し	1	4

f. 最終学歴

	人数(人)	構成率(%)
立正大学(大学院)	14	61
他 大 学	1	4
身延山短期大学	3	13
高 等 学 校	3	13
高 等 小 学 校	2	9
計	23	100

g. 兼業の有無

	寺院数	構成率(%)	宗勢調査値(%)
有	0	0	14.8
無	23	100	79.9
不 明	0	0	5.3
計	23	100	100.0

(2) 寺院の状況

a. 創立年代

	寺院数	構成率(%)
明治以前	1	4
明 治	4	17
大 正	4	17
昭 和	14	61
計	23	99

b. 移転の有無

	寺院数	構成率(%)
有	8	35
無	14	61
不 明	1	4
計	23	100

c. 後継者の有無

	寺院数	構成率(%)	宗勢調査値(%)
有	15	65	65.4
無	7	30	31.1
不明	1	4	3.4
計	23	99	100.0

d. 寺院の主な収入源として
多い順に3つ

注(1番を3点、2番を2点、3番を1点として作成)

	点数
自坊の月回向	51
年中行事	36
葬儀、法事	20
祈禱	21
他寺の法務	4
自坊の収益職業	0
兼業する職業	0
その他	4

(3) 檀信徒の状況

a. 檀家数

	寺院数	構成率(%)	宗勢調査値(%)
なし	1	4	4.2
1～50戸	5	22	27.7
51～100戸	4	17	20.8
101～200戸	5	22	22.1
201～300戸	2	9	11.6
301～400戸	2	9	4.7
401～500戸	2	9	2.4
501～1000戸	2	9	2.8
1000戸以上	0	0	0.6
不明	0	0	3.2
計	23	100	100.0

b. ①信者数

	寺院数	構成率(%)
なし	1	4
1～50人	8	35
51～100人	4	17
101～200人	3	13
201～300人	2	9
301～400人	0	0
401～500人	1	4
501～1000人	2	9
無回答	2	9
計	23	100

b. ②主な年齢層

(回答者数 23人)

	寺院数
20歳代	0
30歳代	2
40歳代	6
50歳代	11
60歳代	9
70歳代	0
無回答	5

b. ③主な性別

	寺院数	構成率(%)
男	0	0
女	9	39
どちらとも	12	52
無回答	2	9
計	23	100

c. 檀信徒の増減

宗 勢 調 査 値

	寺院数	構成率(%)	檀家(%)	信徒(%)
増加傾向	14	61	53.2	43.5
減少傾向	3	13	8.3	6.5
変化なし	6	26	30.2	40.0
不明	0	0	8.3	10.0
計	23	100	100.0	100.0

II 布教の現状について

(1) 月回向の現状

a. 月回向の有無

	寺院数	構成率(%)
有	22	96
無	1	4
計	23	100

b. 1カ月あたりの月回向の戸数

	寺院数	構成率(%)
1～ 50戸	5	23
51～ 100戸	4	18
101～ 200戸	7	32
201～ 300戸	1	5
301～ 400戸	4	18
401～ 500戸	0	0
501戸以上	1	5
計	22	101

c. 1戸あたりの所要時間

	寺院数	構成率(%)
10分以下	1	5
11～ 20分	6	27
21～ 30分	13	59
31～ 40分	1	5
41～ 50分	0	0
51～ 60分	1	5
計	22	101

(2) お寺の行事に参加する檀信徒の割合

a. 祈禱会 (星祭り、守護神祭など)

	寺院数	構成率(%)
1 割	1	4
2 割	1	4
3 割	6	26
4 割	1	4
5 割	4	17
6 割	2	9
7 割	1	4
8 割	4	17
9 割	2	9
無回答	1	4
計	23	98

b. 施餓鬼会

	寺院数	構成率(%)	宗勢調査値(%)
ほとんどこない	0	0	2.1
1 割	0	0	4.6
2 割	1	4	17.3 (3割位が来る)
3 割	1	4	
4 割	3	13	20.5 (5割位が来る)
5 割	5	22	
6 割	3	13	25.1 (7割位が来る)
7 割	4	17	
8 割	3	13	18.0 (ほとんど全員来る)
9 割	1	4	
法要はしていない	0	0	9.3
無回答	2	9	3.1
計	23	99	100.0

c. 彼岸会

	寺院数	構成率(%)
1 割	0	0
2 割	2	9
3 割	5	22
4 割	4	17
5 割	4	17
6 割	0	0
7 割	5	22
8 割	2	9
9 割	0	0
無回答	1	4
計	23	100

e. 信行会

	寺院数	構成率(%)
1 割	4	17
2 割	4	17
3 割	0	0
4 割	0	0
5 割	1	4
6 割	0	0
7 割	1	4
8 割	0	0
9 割	1	4
無回答	7	30
不実施	5	22
計	23	98

d. お会式

	寺院数	構成率(%)	宗勢調査値(%)
ほとんどこない	0	0	2.8
1 割	0	0	9.1
2 割	4	17	26.2 (3割位が来る)
3 割	6	26	
4 割	4	17	21.7 (5割位が来る)
5 割	2	9	
6 割	0	0	19.2 (7割位が来る)
7 割	1	4	
8 割	4	17	12.0 (ほとんど全員来る)
9 割	1	4	
法要はしていない	0	0	6.0
無回答	1	4	—
不明	0	0	2.9
計	23	98	100.0

(4)札幌市の人口に対する宗門寺院の割合はどう思いますか

	寺院数	構成率(%)
多 い	0	0
適 当	12	52
少 な い	8	35
わからない	2	9
無 回 答	1	4
計	23	100

Ⅲ 葬儀、納骨堂（墓地）の状況について

- (1) 主な葬儀式場
(回答者数23人)

	寺院数
自 宅	0
寺 院	4
貸 斎 場	22
集 会 場	16
そ の 他	0

- (2) 葬儀時の平均的役僧数
(回答者数23人)

	寺院数
0 人	1
1 人	5
2 人	8
3 人	14
4 人	0
5 人	0
6人以上	1

- (3) 法号料等の名目での
山納金はありますか

	寺院数	構成率(%)
有	15	65
無	6	26
無回答	2	9
計	23	100

- (4) 一回あたりの葬儀布施収入
※中間報告により省略

- (5) 葬儀社からの依頼の葬儀数

	寺院数	構成率(%)
0	10	44
1～2	2	9
5～6	4	17
10	3	13
15	1	4
無回答	3	13
計	23	100

- (6) 総檀家の何割ぐらいが、
納骨堂を利用していますか

	寺院数	構成率(%)
1 割	3	14
2 割	2	9
3 割	5	23
4 割	2	9
5 割	1	5
6 割	2	9
7 割	1	5
8 割	3	14
9 割	1	5
無回答	2	9
計	22	102

(「納骨堂なし」1人)

IV 寺院運営に関する問題の状況

(1) ①子供数の減少による、墓の後継者問題はありますか

	寺院数	構成率(%)
あ る	12	52
な い	7	30
無回答	2	9
不 明	2	9
計	23	100

(2) 仏壇内に他の信仰の物を発見したとき、どうしますか
(回答者数 23人)

	寺院数
黙 っ て い る	1
説明し外させる	19
絶対に外させる	2
そ の 他	2
無 回 答	1

(3) ①今後、札幌市で日蓮宗は寺院を増やし、檀信徒を増やすことは可能ですか

	寺院数	構成率(%)
可 能 性 十 分	9	39
やりようによって	10	44
不 可 能	0	0
(増やすべき)	1	4
無 回 答	3	13
計	23	100

(4) 今後、現状の檀家制度が維持されていくと思いますか

	寺院数	構成率(%)
現状で心配ない	7	30
僧侶努力で守る	11	48
会員制等新しい形	1	4
不安あり対処不明	1	4
そ の 他	1	4
無 回 答	2	9
計	23	99

Ⅲ アンケートの自由回答欄のまとめと考察

※設問の後ろの数字は、アンケートの質問項目番号

《設問》 今後札幌市で日蓮宗が寺院数を増やしたり、檀信徒数を増やしたりするにはどのような方法が考えられますか。[Ⅳ-(3)-②]

<回答>

1. 計画的に布教拠点を確認することで檀信徒を増やす

①有力寺院が檀家を独占する傾向を改めて欲しい。

檀家を増やすとき、本宗の他寺院の信徒を檀家にするとう問題が起こるので注意が必要。また、有力寺院の檀家の多い地域で新寺を建立をしたり、檀家を確保しようとするとう何かと軋轢が生ずる。こうした大きな有力寺院に檀家が集中する傾向を改め、小さな寺院を増やせば檀家への配慮が行き届き、さらに炭鉱で閉山した寺院の救済にもなる。この為には宗門が人口集中する地を念頭に、計画的に立案し指導してほしい。

②寺院数の少ない所でニーズに合った形で土地・建物を確保していく。

都市では納骨堂の希望が多いのでその整備拡充をはかったり、儀式を行なう施設を充実させることで檀家を増やす可能性は十分ある。しかしそのための土地の確保が困難で、寺院設立に適当な土地を得ることがネックとなっている。一方で、地価の高い都市で寺院を増やすことは困難である。それよりも月回向をまめに行なって布教をすべきだ。そのための拠点として、まず市内寺院は郊外へ、地方寺院が市内に別院や教会・結社として設置していくことを目標にすればいい。

2. 人口増加で可能性は十分あるのだから、教師の熱心な努力が大切だ。

①人口増加で信仰を持たない人が多いから入信者を得ることは可能。ことに若い人を中心に対話しながら法を説いていけばいい。祈祷で寺と檀家は増える。

②教師の本分をつくして絶ゆまぬ努力と熱心な布教で寺檀を増やすことは可能。私は、老僧だが信徒は増えている。正法を流布するにためらいは不要。

<まとめ>

以上のように回答は、精神論と具体論の二つに大きく別れた。精神論派には概して老僧が多いようで、これまでの実績に自負を持たれた意見と思われる。しかし、現実には意欲はあっても地価の高騰、有力寺院との関わり等の問題に若い教師は悩んでいる。精神論を基礎に具体的方策が考えられている状況なら理想的なのだが、実態は現実論と精神論が対立しているように見受けられる。その打開を宗門の指導性に求めているが……。

《設問》 一般に若い人がお寺に来ることが少ない状況ですが、あなたのお寺ではそのために何かなさっていますか、あるいは考えていますか、お聞かせ下さい。[IV-(5)]

<回答>

1. 伝統に固執せず新しいスタイルを考えるべきだ。

家族での参詣を呼びかけ、昼食の供養やともに回向するなどして、喜んでもらえるように勤めている。また、葬儀や法事にイスを用意したり、行事を休日にするなどして、若者に配慮した形を考えている。さらに、若者向けに青年会を作り、行事などで働いてもらったり、毎月の仏教勉強会などを開いて、若者に呼びかけている。

一方、提案としては、子供の信育道場や寺子屋・信行会・写生の会などを開き、寺院を一般に開放して、若者向けの集う機会を増やしてはどうか。伝統仏教には組織的に大規模な華やかさがなく、檀家以外に対する大きなイベントもない。それに加えて寺院の体質的な古さなどが災いして、若い人が寺に集まらない。そこで、組寺内などで青少年に対する信行会などを企画したり、寺を使って何かを行うなど組織的に対処してはどうか。

総じて、伝統に固執せず、寺を一般に開放し、若者向けの各種行事を若者に配慮した形（イス席や休日に行うなど）で、しかも、若者主体に組織的に行えば、若い人は集まるのではないだろうか。

2. 伝統から信は生ず。

墓地や納骨堂がなくても、祈祷を中心に行うことで若者は多く来る。また、法要の厳粛さや心ある回向文と法話、寺院建築の荘厳さや音響を考慮することにより人は集まる。つまり、祈祷や法要、法話など、従来からある伝統的なものを、きちっと真面目に行えば若者も集まる。

3. 住職の人柄で若者は集まる。

住職の接し方や人柄により、寺と檀家との信頼関係ができ、若い人も親に連れられ寺に来るので心配していない。また、すでに若い人も寺に来るので心配はなく、特に方法は考えていない。

4. でも若い人は来ない。

若い人に対し、寺の行事に参加してもらうように呼びかけてはいるが、遊ぶ方が先などの理由で、実際に寺に来てもらうことは難しい。

<まとめ>

以上のことから、若者側に立って若者に合やす形で、新しい布教の方策を模索する必要性は感じつつも、これといった方策はなく、思案中との回答が多い。それに対し、従来どおりのことを真面目にきちっと行っていない結果が、現状のような若者の寺離れなのだとの指摘もある。一方で現状を楽観している回答もあった。伝統的な布教活動や住職の人柄、または、新しいスタイルにより、若い人が寺院に来るはずと考えてはいるもののそれらのことすら積極的には行っていないという現状か。

《設問》 今後の寺院運営の悩みと問題点をお聞かせ下さい。〔④-⑥〕

<回答>

1. 信仰の相続が確実に行なわれない傾向が強く、将来檀信徒の減少が予想される。

核家族化した家庭が増えているので、昔のように親から子への信仰の相続がうまくいかない。中でも子供がいなかったり、施主が女性だったりすると供養の責任を負うという自覚がないなどの苦勞がある。核家族化は家が続かないことを意味し、

さらに都市中心部では人口減少による過疎化すらおきている。

こうした核家族世帯は、墓地进行を民間霊園に求める傾向があり、霊園事業者の方針もあるのか、お盆ですら寺に来ない人達が多くなってきているようだ。同時に、こうした家庭は共働きが多く、月回向に何うにも時間の制約があるなど、寺との関わりが弱まって将来は不安である。

こうした状況の中で、これまでのように行事のときだけではなく、それ以外のときにも檀信徒が集まって来る寺づくりを考えていく必要がある。例えば寺院運営そのものを現代的なシステムにしていくとか、対社会的な福祉活動を行なってマスコミ利用で拡大していくとか。しかし、現実には広大な境内地を有し、種々考えてはいるが、時代の流れが早すぎてどう布教していいのか。これが一番の悩みだ。

2. 檀信徒の教化をしていくためには、後継者・人手及び施設が不十分。

納骨堂が、狭くて小さいことが悩み。土地が狭いので、もう少し土地が欲しい。現在地は設立者（故人）の名義となっており、その上山林の行き止まりの地でどうしたらいいものか。

檀信徒が、増加すると信行指導が行いにくくなる。人手不足が悩み。住職後継者がいないことで入信する人が減少している。若い人材の後継者がほしい。

<まとめ>

大別して、以上の二点に寺院運営の悩みは集約される。人々の寺離れの背景には、都市化・核家族化・民間霊園の増加により人々の寺院への期待感が弱まったことなどが社会的要因として考えられる。しかし、一方で寺院側の要因も否定できない。例えば、新興宗教との関わりで言えば、「知らぬ間に檀信徒に浸透している実態を葬儀当日まで気づかなかった」という悩みを持つ寺院もあった。これをみても人々に信仰心がなくなった訳ではなく、社会の変化に寺院の側の対応が遅れていることがうかがえる。その直接の原因が、寺院の人材不足・土地不足にあるとは思えない。

また、「自坊には寺院運営の悩みは特はない」という回答もいくつかあった。社会の大きな変化の中であって、これらの回答は日頃の布教努力の成果であろう。今

後は、こうした寺院から困っている他の寺院に、その方策を伝授する寺院間協力が宗門興隆の為にも必要と考えられる。しかし、檀家数の多い大寺院ゆえ、その経済力で運営上の悩みを解決しているならば、個々の檀信徒の心の変化に細かく対応できているか、常に自己を省みる姿勢を忘れてはならないであろう。

《設問》 今後の宗門、ことに若い僧への期待・提言をお聞かせ下さい。

[IV-(7)]

<回答>

1. 若い僧は自覚をもって檀信徒を教化すべきだ

最近の若い僧は、行ができていないのではないか。唱題は難行であると認識し、行をもっと厳しく受け止め行ってもらいたい。そして、僧として、能化としての自覚を持ち、少欲知足たるべき生活態度と地道な布教態度を忘れないでほしい。また、若い僧自身が、より深い信仰を求め心を持つことが大切で、法華経の行者としての使命観・目的観・世界観を確立する必要がある。一方、育てる側としては『弟子は寺の使用人ではなく、仏様から預かっている人間なので、質の良い養育をしなければならない』という認識が必要であり、学歴中心ではなく、宗教家としての人格・人間性を育てていく必要がある。つまり若い僧にとって一番大切なことは自分自身が信仰を深め、日蓮聖人の弟子としてその心を受け継ぎ、僧としての自覚を持ち、行学の二道に励むことが大切である。そして、縁有って檀信徒となった人々を大切にして布教教化していくべきである。

2. 青年僧は宗門全体・社会全体に視野を向けろ

僧侶本来の存在理由である「法を弘める」ということを忘れて、お経の宅配や御布施の集金係りなど、儀式的形ばかりを追求する単なる法務遂行者とならないよう注意しなければならない。また、自坊の護持のみにとらわれることなく、宗門行政への積極的な参加や新寺建立などの新たな布教拠点の確保など、宗門全体・社会全体と関わりあいを持ち視野を広く持ってもらいたい。そして、そのように法を弘め

る時には、必ず、仏祖諸天善神の御加護があることを肝に命じてほしい。

3. 宗門行政は柔軟に

都市部の大きな寺院が、檀家の親戚までもを檀家として取り込むなど縄張り意識を持っている。その縄張り意識の中に小さな寺が新寺建立などすると、それだけで圧力をかけられ大変な思いをする。宗門には、その様な弱小寺院の現状や悩みなどを受け入れ解決する機関を設置してもらいたい。また、青年僧が後顧の憂いなく布教活動できるような援助体制を確立すべきであり、課金としてでも強制加入させるような積極的な行政が望まれている。この様に、宗門の人材に対してのフォローアップ態勢の確立が望まれている一方で、別院の開設や新寺建立の時の手続きの繁雑さ、役所的対処の仕方に対しても改善を望む声がある。総じて、規定を杓子定規に運用するのではなく、人間味溢れた血の通った柔軟な宗門行政が望まれている。この事は対外的な面でも指摘されている。つまり、『世間の出来事に対して、もっとタイムリーに対処してもらいたい』というのがそれである。しかし、現在の宗門行政は、形骸化・マンネリ化しており、過去、このようなアンケートをとっても行政に反映されたためしがないので、アンケートは意味がないという痛烈な指摘もある。

<まとめ>

以上の3つを集約すると、杓子定規な宗門行政や法務を形ばかりで考えている僧侶は否定され、僧侶として慈悲心に満ちた人間が求められている。つまり自分自身が信仰を深め、日蓮聖人の弟子としてその心を受け継ぎ、僧としての自覚を持つことが大切であるという意見になる。

最後に「若い僧侶の養育期間が充実しているので心配ない」という、どこにも属さない意見が一つだけあったことを付け加えておく。

おわりに

都市寺院の調査は、「はじめに」の中で述べた通り、新たな開教の可能性を探ることをテーマに、「大都市」に視点を置き、その中での宗教問題全般と、本宗寺院の現状を調査した。今回の中間報告は、第2次調査である平成5年9月2、3日の両日にかけて、札幌市内23カ寺に、配布したアンケートの回収と聞き取り調査を基本データとし、分析と考察を試みたものである。その他今回の調査の特色は、本宗寺院以外の諸教団、葬儀社、霊園に調査範囲を広げた点に見られる。

プロジェクトでは、現在第1次調査のデータ整理を継続しているが、これを進めることにより宗門を取り巻く社会の現状と、未来へ向けての宗門・寺院・教師の指針を示すことになれば幸いである。

最後に、本調査において、北海道西部宗務所長をはじめ、札幌市内寺院各聖、また関係者の方々に快く調査の意義をご理解、ご協力いただいたことに心より感謝の意を表します。